

第5回地域会議議事録

1. 日時 平成27年1月18日(日)10:00~12:00

2. 場所 久寺家近隣センター会議室

3. 出席者

【久寺家地区自治会・町会】4名

久寺家自治会長、土谷津町会長、

久寺家三菱自治会長、久寺家二丁目自治会長

【我孫子第一地区民生児童委員】2名

【我孫子市北地区社会福祉協議会】3名

会長、副会長 2名

【NOP 法人 ACOBA】2名

【みんなの「風」】1名

施設長

【久寺家地区まちづくり協議会(以下、まち協と呼ぶ)】6名

会長、副会長、総務部長、総務部副部長、施設管理部長、広報部長

【久寺家きらめきサロン】1名

【地域会議事務局・記録】2名

【我孫子市市民活動支援課】2名

4. 議事

まち協会長の開会の挨拶、本日初めての会議出席者の自己紹介、第4回地域会議議事録の内容確認の後、以下の議事に入った。

(1) 進捗及び経過報告

1) 買い物ツアー

まち協は、地理的要因から日新自治会を中心に買い物ツアーの必要性及び導入について意見聴取をおこなった結果、3~5年後には心配だとする人は多いものの、現在すぐに必要だとする人は1名であった。また、久寺家マンション自治会のアンケート調査結果は、途中段階ではあるが、現在緊急性の高い人はいないものの、近い将来、強く必要性を感じている方が12名程度いる。以上のことから、現在のところでは、買い物ツアーのニーズは少ないと言えるので、当面は状況の推移を見ることとし、4人一組によるタクシー利用を前提とした方式の実現性も含めて引き続き検討をしていくこととした。

2) サロンについて

まち協は住民の「居場所」の設営を検討してきたが、この度、久寺家1丁目にある「みんなの広場「風」」から現施設の1階一部の使用許諾を頂いた。運営の詳細は今後も詰めていくが、例えば、お世話係については、「久寺家きら

めきサロン」の方々を中心として、さらに公募も含めて人選を進めていく予定である。今後出てくると思われる問題については、「我孫子市北地区社会福祉協議会」にもご支援を頂きながら、地域住民にとって最善の形になる様、また、様々な形で利用できるように設営していきたい。設営の要点は次の通り。

- 自宅に引きこもりがちな人でも、身近で行き易い場所。
(喫茶、将棋、囲碁、他ゲームの場として)
- 予約制による小人数サークルの活動場所。
- みんなの広場「風」の売店も活用（新鮮な野菜やカボチャプリン等）
- ギャラリー機能を設ける
- 土、日曜日は「飲み会」や「女子会」の場所としても利用可能としたい。

3) ポストについて

まち協会長及び自治会長・町会長（連名）は、日新地区へのポスト設置について市に要望書を提出した。その後、我孫子市長から日本郵政（株）我孫子郵便局長あてにポスト新設に関する要望書を提出していただいた。

- この経緯について、市民活動支援課から以下の補足があった。
上記要望書は平成 26 年 12 月中旬に提出した。郵便局側の感触は設置基準（1 日当たりの集荷ノルマなど）を充たしていないことから、現段階では実現可能性が低いように感じている。
- まち協総務部副部長から下記の意見があった。
郵便局側は、もっと弾力的に対応できる余地があるのではないか。例えば、日新地区の特定の場所に、郵便物をまとめて置き、配達に来た人が一緒に持ち帰るといった方法もあると思われる。

4) 除雪に関する人手不足の問題について

- 昨年 2 月の大雪の時に、除雪に苦労している家庭には「お助け隊」が出動、支援したものの、人手不足から支援に限界が生じた。昨年の経験も踏まえて今後の対応を検討する必要がある。久寺家三菱自治会及び久寺家 2 丁目自治会の両自治会だけをみても除雪に困っている家庭は 20 件程度と予想されている。現在の「お助け隊」対応可能人員 7 名では不足している。
- 除雪が必要と予想される家庭には、近隣センターを経由しないで、直接「お助け隊」あてに電話依頼できるように、あらかじめ「お助け隊員」の名前を通知しておき、円滑に対応できるようにした。
- 今後、「お助け隊員」の人員増加を考えていかなければならない。
また、久寺家三菱自治会及び久寺家 2 丁目自治会以外の要請については、以上のような実情から対応が取れないので、当面は各自治会で対応していただく様に申し入れをした。

5) 地域団体（中央学院大学）とのコラボレーションについて

まち協は、中央学院大学と空き室の活用方法の一つとして大学生に貸室する件について話し合った。その結果、高齢者との同居については「今の学生の感

覚には合わない」との事からニーズがないと判断した。

(2) 意見交換

1) 独居、孤独死の問題について

- 柴崎久寺家2丁目自治会長から昨年末に起きた「孤独死」について以下の説明があった。久寺家2丁目自治会内において、11月末から12月上旬に、「階段で倒れた」まま数日間経過した状態で発見された、いわゆる独居老人の「孤独死」が発生した。久寺家2丁目自治会では、今後の対応のひとつとして、特に一人暮らしの方については、班長さんが見回りすることとした。近隣の方、友人など周りの方がどのようにして、本人の（生活）異常に気づけるのかは今後の課題でもある。例えば、新聞配達の方に依頼して、ポストの状況を見ておかしいと感じた時に自治会長に通知するような方法もある。
- 民生児童委員から以下の発言があった。一人暮らしの方が、ご近所と日頃どのような付き合いをしておられるかが大事だと思う。例えば、信頼できる方を決めてお付き合いをしてお互いに自宅の「鍵」の置き場所を通知しあっているなど本人の日頃からの自助努力、知恵も必要だと思う。また、自分は大丈夫だと頑なにならず、介護、ヘルパーなどのシステムをうまく利用して生活を考えることも大事だと思う。
- 久寺家自治会長及び土谷津町会長から以下の発言があった。家族構成からみて、一人暮らしの方は少ないし、また、親戚知人が周りに多く住んでおり、日頃から親密な付き合いをしているので、今回の久寺家2丁目自治会の「孤独死」のような状態は想定していない。
- 北地区社会福祉協議会長から以下の発言があった。北地区社会福祉協議会は「エリア懇談会」を5地区に分けて開催している。各自治会がどういう問題をかかえているかなどについてお伺いをしている。今回の「孤独死」の問題に関連して、北地区社会福祉協議会で行っている「電話訪問サービス」の活用の必要性を強く感じた。これは、地域から推薦された方で、一定の研修を受けた方が「もしもしコール」によりお話し相手となり、併せて安否確認をするシステムで、3回電話して電話に出られず、留守かどうか分からない時は、各自治会に通知することになっている。現在利用者は10名程度で少ないが、このシステムの利用拡大を図る必要性を感じている。
- 市民活動支援課から以下の補足があった。市の緊急通報システムは、要介護の人が対象。現在、550件程度稼働している。

(3) その他

- 1) NPO法人ACOPAから、「起業・創業シンポジウム」を2月7日（土）中央学

院大学における開催案内及び ACOBA が用意したパンフレットの各家庭への配布について各自治会・町会長へ依頼があった。

- 2) 久寺家 2 丁目自治会長より、歩道に駐車場への入り口付近で傾斜があり、歩きにくいという意見が出ており対応に苦慮しているとの報告があった。この穏やかな傾斜は、雨水管工事に伴う道路工事の際に工事会社（市役所道路課了承済み）が各家庭の希望を聴いて有償で工事したもので、一律には考えられないと思われる。
- (4) 次回の地域会議（事務局から）
次回（平成 27 年度初回）は 5～6 月頃に開催の予定。
4 月以降に改めて案内を通知。

以上